

言語コミュニケーション文化研究科

Graduate School of Language, Communication, and Culture

2023

入試日程

■2023年度 博士課程前期課程

一般 社会人		試験日	出願期間
スターリング大学 ダブルディグリーコース*	第1次	2022年 9月10日(土)	2022年 8月 1日(月)～ 8月 8日(月)
英語教員対象 1年制修士学位コース	第2次	2022年 11月26日(土)	2022年 10月26日(水)～11月 2日(水)
	第3次	2023年 2月18日(土)	2023年 1月19日(木)～ 1月26日(木)

※スターリング大学ダブルディグリーコース第2次および第3次入試は、定員充足状況により実施しないことがあります。

学内推薦		試験日	出願期間
	学内推薦第1次	2022年 9月10日(土)	2022年 8月 1日(月)～ 8月 8日(月)
	学内推薦第2次	2022年 11月26日(土)	2022年 10月26日(水)～11月 2日(水)

■2022年度・2023年度 博士課程後期課程

2022年度 秋入学		試験日	出願期間
	秋学期入学	2022年 7月 2日(土)	2022年 6月 2日(木)～ 6月 9日(木)

2023年度 春入学		試験日	出願期間
	春学期入学	2023年 2月17日(金)	2023年 1月19日(木)～ 1月26日(木)

◎交通アクセス



西宮上ヶ原キャンパス

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
阪急電車 今津線「甲東園」駅または「仁川」駅から西へ徒歩約12分
または「甲東園」駅から阪急バス約5分「関西学院前」下車



大阪梅田キャンパス

〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19(アプロースタワー10、14F)
阪急電車「大阪梅田」駅から北へ徒歩約5分



Better Communication for a Better World

コミュニケーションを柱に、4領域で言語と文化を探究

言語と文化の両面から人と社会にアプローチする

「言語コミュニケーション文化学」は

人と社会の関係を地球レベルで進化させ、未来を輝かせる大きな力になります。

本研究科では、言葉や文化の壁を超えて互いの力を分かち合い、

高い志をもって未来を創造する

グローバル化の時代の担い手となる人材を育成します。

言語科学 領域

人が言語をどのように
駆使するかを解明

言語文化学 領域

地域文化、多言語多文化学際、
映像演劇文化の諸問題を探究

言語教育学 領域

学際的・実証的に
言語教育を探究

日本語教育学 領域

外国人を対象とした
日本語教育を探究

言語運用能力をブラッシュアップ

本研究科では言語運用能力をブラッシュアップするための授業を開講しています。
国際的な学会でのプレゼンテーションやディベート、
そして研究論文執筆に必要な「読む・書く・聴く・話す」能力を、
「言語コミュニケーション能力養成科目」(英語・フランス語・ドイツ語・中国語)で養成します。

〔研究科委員長からのメッセージ〕

対話の必須要素を深く研究する

社会が平和のうちに発展するには、価値観の異なる人同士が理性に基づいて対話することが不可欠です。関西学院が育てようとする「世界市民」が持つべき資質には、対話ができること、そして人に対話を促すことができることが含まれていると思いますが、その対話には、異なる言語、異なる文化に対する理解が欠かせません。言語、コミュニケーション、文化の三つを名前に掲げる本研究科は、そのような対話を支える基本的要素を研究する場であると言えるのではないのでしょうか。

本研究科では、外国語運用能力を磨くと共に、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域における知見を深く学び、自らの研究を通してその分野に貢献することを目指します。言語を軸としたコミュニケーションや文化に関わる研究領域に対しては、科学的な視点から、文化学的な視点から、あるいは教育の理論と実践の観点からといった、様々な方向からのアプローチが可能です。研究分野、年齢、職歴等、バックグラウンドも様々な学生が集い、切磋琢磨しています。

私達と共に研究することを志す皆さんには、人間が人間らしい社会を築くことに欠かせない言語、コミュニケーション、文化を、ぜひ自分の視点から丁寧に見ていただきたいと思います。その先に、理を尽くして考え、対話することの大切さが見えてくるのではないのでしょうか。そのような感覚を持ちつつ、言葉に関わるプロフェッショナルとして社会に貢献して行こうとする人に出会えることを、心より楽しみにしています。

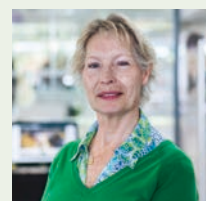
言語コミュニケーション文化研究科委員長
田中 裕幸





世界中の留学生が集う 英国スターリング大学で学び、 両大学の修士号を取得する。

最短2年間で、本研究科修士号(言語教育学または言語科学)および
スターリング大学大学院 MSc (TESOL) の2つの修士号を取得できます。



University of Stirling
MSc in TESOL
Programmes Director
Anne Lawrie

<Message>

As the Programme Director for the Double Degree between the universities of Kwansei Gakuin and Stirling, I am delighted to report that our first Double Degree student graduated in March 2018. After two years of study, this student graduated with two Master level degrees rather than one.

In an increasingly competitive world, I believe that Double Degrees are a sign of the future. In the world of teaching in general and TESOL in particular, the more exposure to and awareness of different learning and teaching styles can only enrich and develop our knowledge and understanding of the field, which, in turn, informs our own practice. By providing the opportunity to study in Japan and Scotland, our Double Degree offers that opportunity precisely. Other benefits of the Double Degree programme include: it provides an excellent balance between theory and practice; it increases your cultural awareness as you work and study with native and non-native speaking students from other parts of the world and most importantly, it increases your future employability and promotion prospects. Graduates of our Double Degree are truly global citizens.

2つの修士号を取得できる
ダブルディグリーコースです。

関西学院大学大学院からスターリング大学大学院に2セメスター留学し、所定の単位を修得して双方の修士論文審査に合格することによって、両大学の修士号を取得できる制度です。

TESOLを専攻し英語教育を学ぶことができます。

世界各国の留学生と机を並べながら、最新の研究動向に精通したアカデミックスタッフのもと、英語教育の実践的テクニックと、その裏付けとなる理論を学ぶことができます。

TESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages)
英語の非母語話者への英語教授法。スターリング大学では、モジュール(科目)選択の組み合わせによって、TESOL、TESOL Applied Linguistics、TESOL Teaching Methodology、TESOL Sociolinguisticsの4つから、取得する修士号(MSc)を選ぶことができます。

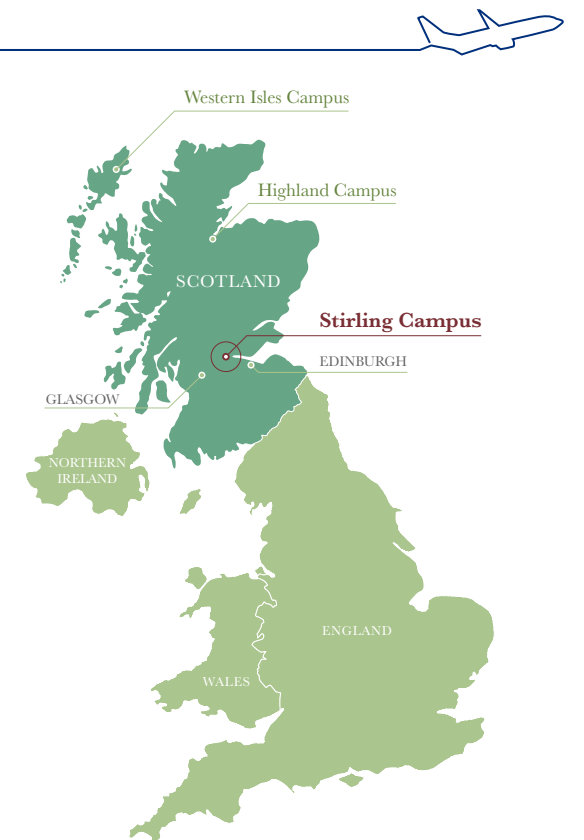
修了生からのメッセージ

私はダブルディグリーコース2期生として2019年3月に両大学で修士号を取得しました。本コースの良いところは、異なる特色をもつ関西学院大学とスターリング大学の教育を受け、言語学、応用言語学、言語教育学など幅広く理論を学ぶことができる点です。このためそれまで英語教育に携わってきたものの、ある教育法がなぜ有効なのか(またそうでないのか)を知りたい、考えてみたいと思っていた私には大変有意義なコースでした。

また両大学には研究をサポートしてくれる先生がおられるため、研究にしっかり取り組みたい方にもおすすめです。実はスターリング大学には英語をこれまで教えた経験のない学生もたくさん来ています。英語を教えたことがなくても、英語教育や応用言語学に興味があるという方は、是非、応募を検討してみてください。関西学院大学もスターリング大学も大変美しいところです。また私は両大学で良い友人に恵まれました。チャレンジするなら全力で!きっと良い道が開けると思います!



金山 篤志
2019年3月前期課程修了
オックスフォード大学留学中



スターリング大学

創 立: 1967年
学校種別: 国立
所 在 地: 英国スコットランド



世界の大学ランキングにおいて総合五つ星を獲得する英国スコットランドの総合大学。湖や18世紀の古城を取り囲む330エーカーの広大なキャンパスに、講義棟、図書館、学生寮、スポーツ施設、アート・センター、カフェ、レストランが建ち並び、11,000人以上の学生が学ぶ。115ヶ国からの留学生が全体の23%を占め、学習・生活の両面におけるサポートも充実している。

*QS World University Rankings 2015/16

2年間の基本的な流れ

1年次		2年次	
セメスター1 (4月~7月)	セメスター2 (9月~12月)	セメスター3 (1月~8月)	セメスター4 (9月~3月)
関西学院大学 言語コミュニケーション能力 養成科目を中心に履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修	スターリング大学 TESOLコースで 専門科目履修 学位論文提出	関西学院大学 専門科目、演習科目の履修 学位論文提出

学費・奨学金 ※2022年度実績

学 費				奨学金
1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期	
約35万円 (+入学金20万円)	関西学院大学: 5万円 (通常: 約70万円) スターリング大学: £9,364 (通常: £19,145)		約35万円	月額7万円支給 (留学期間中)

その他

◎専修免許(英語)取得可能

主な受験資格

希望者は「スターリング大学ダブルディグリーコース入試」を受験します。

主な受験資格
- IELTS 6.0 以上 (Speaking & Listening 5.5, Reading & Writing 6.0) - TOEFL iBT: 69点以上 (Speaking 17, Listening 11, Writing 23, Reading 18) - Pearson Test of English (Academic): 54点以上 (Speaking 51, Listening 56, Reading & Writing 60) - Cambridge Certificate of Proficiency in English (CPE): Grade C - Cambridge Certificate of Advanced English (CAE): Grade C
入学試験形態
□ 述 試 験

充実のカリキュラムと指導体制

前期課程では、4つのプログラムに分かれて学びますが、他のプログラムの科目も自由に履修できる柔軟なカリキュラムを設定しています。また、指導教員やサブ・アドバイザーによるきめ細かな指導を徹底しており、確かな研究能力の養成に取り組んでいます。

Courses

「研究演習」を履修する 修士論文コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、指導教員（研究演習担当教員）から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究計画を立て、先行研究などの必須文献を通して知識を深めながら自律的に研究を進め、修士論文の作成に取り組めます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容、もしくは調査分析をもとにした実証的な内容が求められます。

「課題研究」を履修する 課題研究コース

出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員、サブ・アドバイザーによるアドバイザー・コミティが結成されます。このアドバイザー・コミティとの年2回の相談会と個別相談により、各自が独自の課題について研究計画を立て、課題研究論文作成に取り組めます。課題研究論文はフィールド・ワークなど実践的、実学的な内容に加え、修士論文と同等レベルの内容が求められます。なお、課題研究コースは、言語科学、言語教育学に設置されています。授業は夜間に大阪梅田キャンパスを中心に履修して修了することができます。

両大学の修士号が取得できる スターリング大学 ダブルディグリーコース

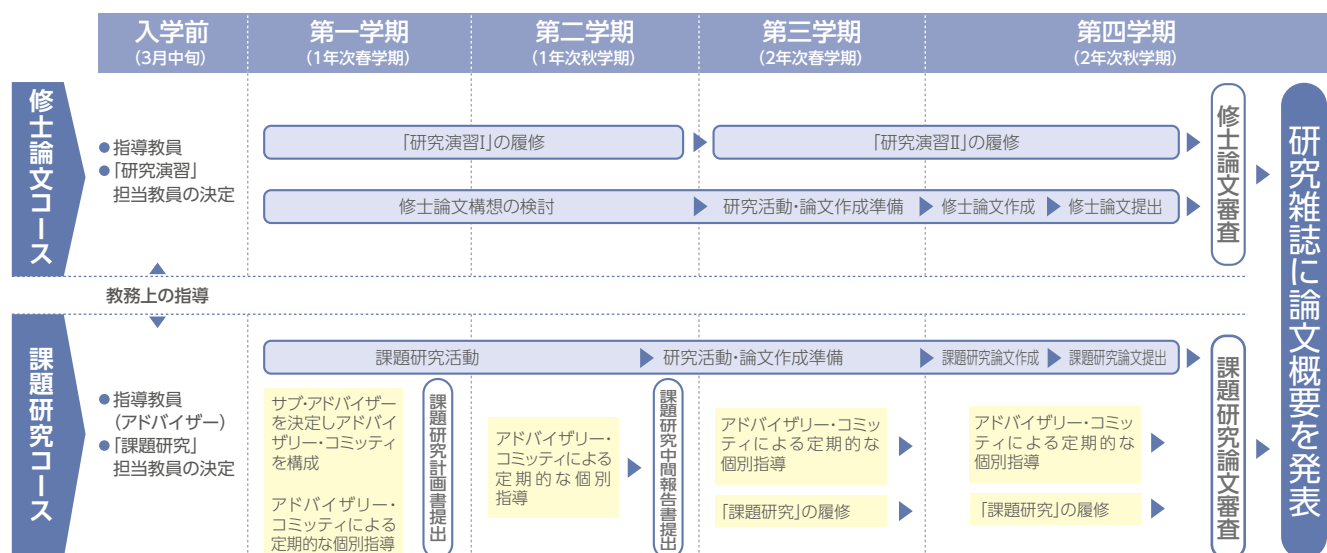
出願時に提出した研究計画書に基づき、入学後に指導教員（研究演習担当教員）から「研究演習」を通じて研究指導を受けながら研究を進めていきます。1年次春学期に開学で「研究演習Ⅰ」を履修し、秋学期からはスターリング大学で「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」相当科目を履修し、修士論文の作成に取り組めます。修士論文は学術的、理論的色彩の強い内容や調査をもとにした実証的な内容が求められます。

英語教育の実務家としてスキルアップを図る 英語教員対象 1年制修士学位コース

出願時に提出した研究計画に基づき、指導教員（研究演習担当教員）、サブ・アドバイザー2名によりアドバイザー・コミティを結成し、年2回の相談会と研究演習を通じて課題研究論文を作成します。課題研究論文を選択しない場合は、口頭による英語でのプレゼンテーションによって修士学位に相当する専門分野の知識や技能があるかを審査します。研究テーマについても実証的な内容に限らず、教育実践に焦点を当て、教材研究、授業研究など幅広く研究テーマを選択することができます。

アドバイザー・コミティ 課題研究コース、英語教員対象1年制修士学位コース生に対して、指導教員1名とサブ・アドバイザー2名の計3名でアドバイザー・コミティを構成し、学生の研究活動をサポートします。修了までの毎学期、アドバイザー・コミティ相談会が実施され、コミティのメンバーと各自の研究計画や進捗状況について相談するほか、相談会以外でもe-mail等を活用した研究指導を受けることが可能です。

■ 前期課程(2年間)の流れ



※ダブルディグリーコースはP4参照。

個人指導、集団指導で 手厚くサポート

本研究科は、言語教育、異文化理解、第二言語習得、心理言語学、対照言語学、社会言語学、会話分析など、言語と文化が深く関わりあう領域を専門とする研究者を輩出しています。後期課程では、指導教員が実施する個人指導の「個別研究指導」と、指導教員を含む3名の教員によって構成されるアドバイザー・コミティが実施する集団指導の「リサーチセミナー」の2つによる研究指導が行われます。

Courses

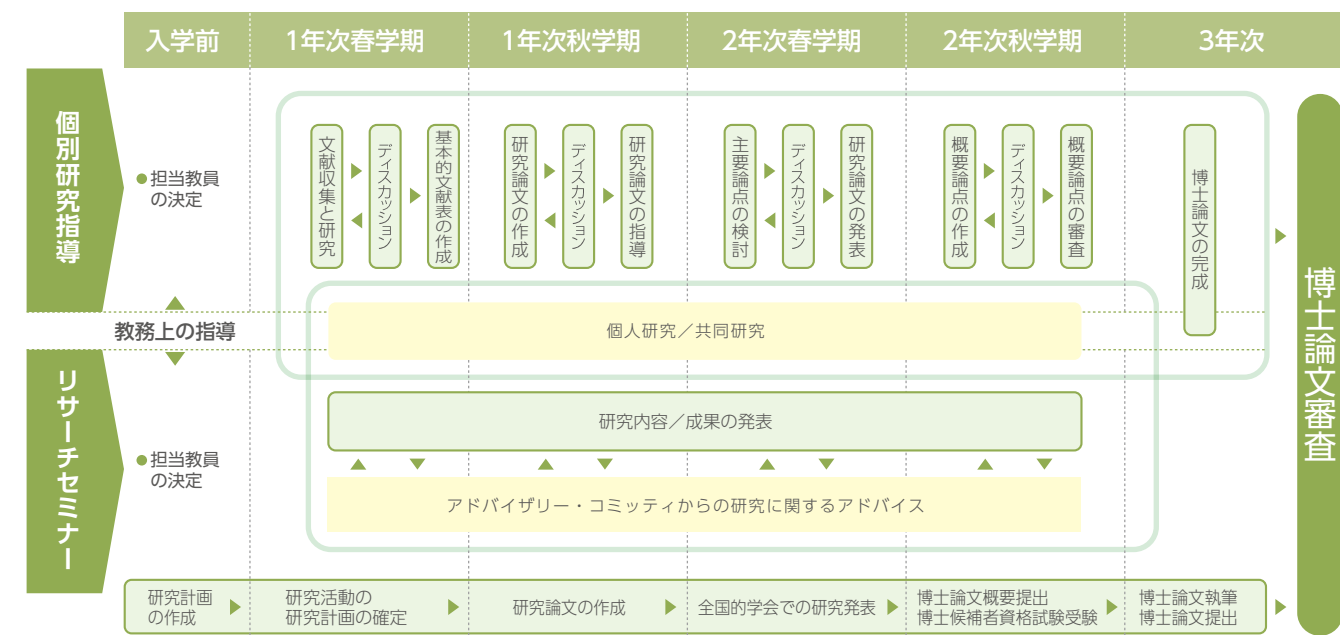
個別研究指導

指導教員による研究演習です。学生による研究の経過報告と指導教員によるコメントや助言を中心に、週に1回、3年間にわたって指導し、博士論文の作成を進めます。専門的な研究指導を行うとともに、課程修了後、言語コミュニケーション文化の専門研究者として独り立ちするために、文献・資料の収集方法、論文作成方法などの技術的側面の指導から研究に対する姿勢まで全般にわたって指導します。

リサーチセミナー

集団指導体制によって実施されるセミナーです。言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から横断的、総合的に各自の研究を推進し、課程修了後、研究者として自立して研究を遂行していく能力を身に付けることを目標とします。セミナーは、指導教員を含む3名の教員からなるアドバイザー・コミティが担当し、毎月1回、学生による研究内容の報告を中心に行われます。なお、本セミナーは研究科内で原則として公開とし、アドバイザー・コミティ以外の他の研究科教員及び院生にも開かれています。

■ 後期課程(3年間)の流れ



※博士課程後期課程の必要修得単位数は12単位とし、個別研究指導12単位およびリサーチセミナー6セメスター分の履修を必修とする。



人が言語を駆使する仕組みを

言語、心理、社会

など多角的に追究

言語科学領域



ことばを科学的視点から分析し、
言語の実態を明らかにする

言語構造、言語コミュニケーションを有効に成り立たせる条件、人間が言語をどのように駆使するかなどを科学的に解明します。研究分野としては、音声学、音韻論、統語論、意味論といった言語科学の基礎を成す分野や、文と文脈との関連性を考える語用論、生得的な言語獲得能力と外国語習得との関わりを研究する言語習得論、言語と社会との関わりを研究する社会言語学、言語と心理との

関係を研究する心理言語学、言語使用の実態研究を行うコーパス言語学、言語表現論など、言語コミュニケーション能力の解明に関する分野があります。後者は言語教育や文化に関する研究とも関係しています。基礎分野を概観する講義で言語を科学的な分析の対象にすることの意味を学び、さらに各論の講義において、その分野での研究方法を身につけることができますようになっています。

クローズアップ講義

◆音声学

言語の音声面における規則や現象に焦点を当てます。講座の後半では音韻論(音体系中の規則を明らかにする分野)も扱います。研究対象言語は主に日本語と英語ですが、音声学の範囲は大変広いので、外国語教育に役立つ調音音声学を主に取り扱います。

◆言語習得論

人間は母語だけではなく、第二言語(外国語)を習得する能力を持ちます。第二言語習得における様々なメカニズム(たとえば、母語からの転移、段階的な発達、個人差)が、言語理論の成果をもとにどのように解明されてきたか考察します。

◆心理言語学

認知心理学や生理心理学で使われている実験方法から得られるデータに基づいて、言語の理解や発話生産の過程及び言語の獲得・喪失のしくみを明らかにする学問分野です。母語話者だけではなく、第二言語の学習者についての研究も扱っています。

◆コーパス言語学

コーパス言語学とは何か、そして、英語のコーパスを使った実際の研究方法について学びます。コーパスの基礎的理論を理解したうえで、コーパスをどのように言語研究や辞書編纂に活かしていくことができるか検討していきます。

■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- カタカナ語における長母音の生成 ―日本語母語話者と日本語学習者の比較―
- A Corpus-Based Analysis of *Take*: With Special Reference to Its Linguistic Formal Types
- On the Licensing of Negative Polarity Items in the Complement of Inherently Negative Verbs
- 日本語かき混ぜ文におけるフィラーギャップ依存関係の処理過程 ―事象関連電位を指標として―
- The Syntactic and Semantic Differences of Modal Adjectives: With Special Reference to *Probable*, *Likely*, and *Possible*
- 聾学校におけるろう児と教師の関係性についての社会言語学的研究

Message from Students

多様な視点にふれながら学べるのは、
他の大学院にはない魅力です。

中野先生のゼミで第二言語学習者による英文処理について研究しています。具体的には、ネイティブと非ネイティブの学習者の読解スピードや内容理解といった英文処理の差を比較し、弱い部分を明らかにすることで第二言語学習者の英語学習に役立てるのが目的です。本研究科に入ってから良かったと思う一つに、社会人経験者の方が多いことが挙げられます。授業での意見交換では、社会経験を踏まえた多様な考え方にふれられますし、私は一般企業への就職を考えているので社会や仕事の話を聞けるのはすごく勉強になっています。ゼミは私1人ですが、本当に良い雰囲気です。中野先生はとても親切で、私が聞いたことに対して、回答はもちろん関連文献や先行研究など多くのことを返してください。修了まで1年、研究を深め、海外の学会でその成果を発表するのが今の目標です。



新井 大智
前期課程 修士論文コース 2年



言語学と基礎からしっかり向き合え、
英語教員への自信ができました。

大学の教職課程で、バイリンガルや帰国子女など英語を感覚的に身につけている人たちの英語力の違いを痛感。その差は知識で埋めるしかないと考え、言語学を専門的に学べる本研究科への進学を決意しました。修士論文では、統語論と意味論の観点から、標準語そして英語と比較しながら高知方言の文法を研究。私の出身である高知方言には標準語にない「完了形」が存在し、高知方言のアスペクトを分析することで今後の英語教育に活かしたいと考えたからです。本研究科の最大の魅力は、先生方がとても親身に接してくださること。教授と院生という堅苦しい関係はなく、真剣かつ和気藹々とディスカッションした思い出ばかりがたくさん残っています。今春から、高校で英語教員として働きます。自身の研究から方言を英語教育に活かす方法を提案し、授業で実践していきたいです。



近藤 真由
前期課程 修士論文コース 2022年3月修了



英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏、中国語圏の

言語と文化を研究

言語文化学領域



境界線を超える ～多言語・多文化社会への学際的アプローチ～

多言語・多文化社会を積極的に理解し、異文化理解の視点からグローバルに行動できる人材を養成します。「比較文化学」「異文化理解」などの科目は言語や文化の境界線を超えようとする科学です。各プログラムの特徴ですが、まず「地域文化研究プログラム」はヨーロッパ、北米、日本を含む東アジア地域の言語や文化に

かかわる基礎研究を踏まえて、言語と文化の問題をさまざまな角度から扱います。「多言語多文化学際プログラム」は境界線を超えた言語・文化事象に関わる多彩な問題を扱います。また「映像演劇文化プログラム」は、映画・演劇という文字テキストの枠を超えた表象文化に関わる問題群を扱います。

クローズアップ講義

◆日本文化

近年、「日本的なもの」を他国の文化から差別化し、再評価する動きが日本国内にあります。和食、富士山、桜など。この講義では「日本的なもの」という表象の起源をさぐると共に、それを徹底して「外から」相対化することをめざします。

◆言語文化学

4人の教員によるオムニバス形式の授業。英米文化・文学におけるモダニズムおよびポスト・モダニズム期に焦点をあて言語文化の多様性と歴史を学ぶと同時に、人文科学研究の在り方そのものも批判的に考えます。「言語文化」を研究するとは？ぜひ一緒に考えましょう。

◆多言語主義・多文化共生

人の移動が激しくなり、社会は多文化・多言語化しています。その現象を、シティズンシップ教育、海外と国内の日本語教育、ヨーロッパの言語政策、ヘイトスピーチ、猪飼野の民族関係、日本の多言語化などを題材にして質的に考察します。

◆映画学

映画学Aではアメリカ、映画学Bではアジアを軸に、映画／映像の分析を通じて、文化を多面的に理解することを目指します。テキストとコンテキスト（文化的・社会的・歴史的文脈）を意識し、クロスメディア研究から見えてくる複雑な文化体系を学問しましょう。

■ 修士論文テーマ(抜粋)

- ベトナム戦争映画のモチーフと二重化 —『地獄の黙示録』におけるウィラードの揺らぎについて—
- Nathaniel Hawthorne in the Age of Science: A Study of His Later Short Stories
- ライトノベル翻訳における役割語としての女ことば —西尾維新『化物語』とBAKEMONOGARIを比較して—
- 英語教科書における異文化理解題材の分析
- アメリカ大統領に立候補した最初の女性 —伝記からみたヴィクトリア・ウッドハルと19世紀アメリカ社会—
- カナダ在住国際結婚の日本人女性達のライフストーリー
- フランスと日本の子育て文化

Message from Students

多様な人々の考え方にふれながら、
幅広い視点で学ぶことができます。

本研究科へ進学を決めた理由は、大学時代に海外へ行った際に感じた文化や価値観の違いをもっと深く学びたいと思ったからです。現在は、日本と海外を比較し、「安楽死」という言葉が書籍やメディアなどを経由して人々のイメージをどのように左右しているのかを研究しています。日本語の「安楽死」には“よい死に方”というある種ポジティブなニュアンスが含まれていますが、海外では必ずしもそうではありません。「安楽死」という行為の背景に潜む、社会の死生観や倫理的な価値観を考察したいと考えています。本研究科では、年齢や国籍の違いなど様々なバックボーンを持つ学生や先生と講義などで交流することができ、自分の知らなかった考え方や物事の見方をたくさん吸収できました。ここで学んだ多角的な視点と英語力を活かし、将来は異なる文化の人々と関わる仕事に就きたいです。



上田 茉弥
前期課程 修士論文コース 2年

中国と日本、2つの言語と視点を活かし、
台湾の歴史と文化を立体的に把握したい。

中国の大学、大学院で6年間日本語を学んできました。勉強を進めるにつれ、中国にいたまま日本語を学習することに上達の限界を感じ、また日本語を使ってもっと広い世界を見たいという思いが強くなっていました。ちょうどその頃、先生から関学とのダブルディグリーコースを紹介していただき、留学を決意。現在は大東先生のゼミで、母語の中国語と勉強している日本語を活かし、日本統治期の台湾文学について研究しています。ゼミはマンツーマンなのでコミュニケーションが多く、先生の過去の苦労話などの経験談を聞くこともできます。今の自分の未熟さを知り、もっと頑張らなければと励まされます。将来は中国で教鞭を取りたいと考えており、私も大東先生のように学生の研究姿勢や勉強態度にも良い影響を与える教育者になりたいと思います。



宋 元祺
前期課程 修士論文コース 2022年3月修了
後期課程 1年

学際的、実証的に 言語教育

言語教育学領域



言語教育の変容に
柔軟に対応できる確かな教育力を養成

今、外国語の学習・習得研究が脚光を浴びています。なぜでしょうか。これまで言語教育学の主な目的は、その研究成果を教室での教授法に応用することでした。しかしそれだけでなく、外国語の習得(acquisition)という「窓」から、言語習得という「知的いとなみ」、さらには人の「こころの仕組み」を調べる…そんな領域へと変貌したからです。言語の習得や教育の基本を扱う言語教育学、第二言語習得、



早期英語教育理論などから、中高生に英語を教える実践を学ぶ英語教育実践、教育評価や、小学校での外国語活動のための小学校英語教育実践まで、言語教育学の全領域をサポートします。現代の言語教育学の潮流へと、しっかりとしたチャート(海図)をもって、皆さんをご案内します。

クローズアップ講義

◆第二言語習得

外国語の学習・教育実践に応用できる言語学習理論について深く学べる科目です。心理言語学、応用言語学、神経科学などの知見に基づき第二言語習得を可能にしている「こころの仕組み」について探求します。

◆英語教育教材研究

英語教材開発に関する基礎知識や問題点をふまえた上で、スキル別、タスクベース、CLIL教材等を実際に作成します。作成した教材を評価・改善し、学習者にとって適切な教材を開発する実践力を習得します。

◆言語教育政策

言語政策を教育の視点からマクロに議論します。文部科学省、教育委員会、学校は公的な制度です。教科書検定、常用漢字、ヨーロッパ言語共通参照枠、識字教育、日本語教育推進法なども言語教育政策の話題です。

◆教育評価

授業ではいろいろなテストが実施されます。しかし、それらのテストは生徒の英語力や授業で教えたことを適切に測れているのでしょうか。この科目では、「測ること」の基礎と、評価への応用の方法について学びます。

■ 修士論文・課題研究論文テーマ(抜粋)

- 発散性の高い英作文における自動採点システムと人間による評価の比較と自動採点システムの課題
- Effects of Extensive Reading on Japanese Junior High School Students' Motivation to Study English
- Effective Vocabulary Learning for Japanese High School EFL Learners: Prefix Mnemonics
- Efficacy of Shadowing and Repeating for Listening Comprehension on Japanese Learners of English
- Japanese Learners' Engagement with Written Metalinguistic Explanation on English Articles
- 英語教育におけるnative English speakerの役割 —Assistant Language Teacher以上の存在になるために—

Message from Students

英語教育の指導法はもちろん、
授業のすべてが財産となりました。

長年、塾や専門学校、企業研修などで英語を教えてきましたが、もっと専門的に英語教育について学びたいと考えていました。学校をいろいろと探すうちに、本研究科に英語教育に特化した言語教育学プログラムがあることを知り、入学を決意。氏木先生の授業がきっかけで語彙指導に興味を持ち、修士論文では、イラスト付き接辞を活用した語彙指導の効果について研究しました。ゼミはマンツーマンで、英語教育の授業はいずれも少人数クラス。丁寧できめの細かい指導を受けられるのが醍醐味です。また、どの先生も本当に教え方が魅力的で、授業は毎回感動。勉強になりました。4月から大学で英語の非常勤講師として働きますが、先生方の声のトーンや話の運び方など飽きさせない授業の仕方を見習い、実践していきたいです。

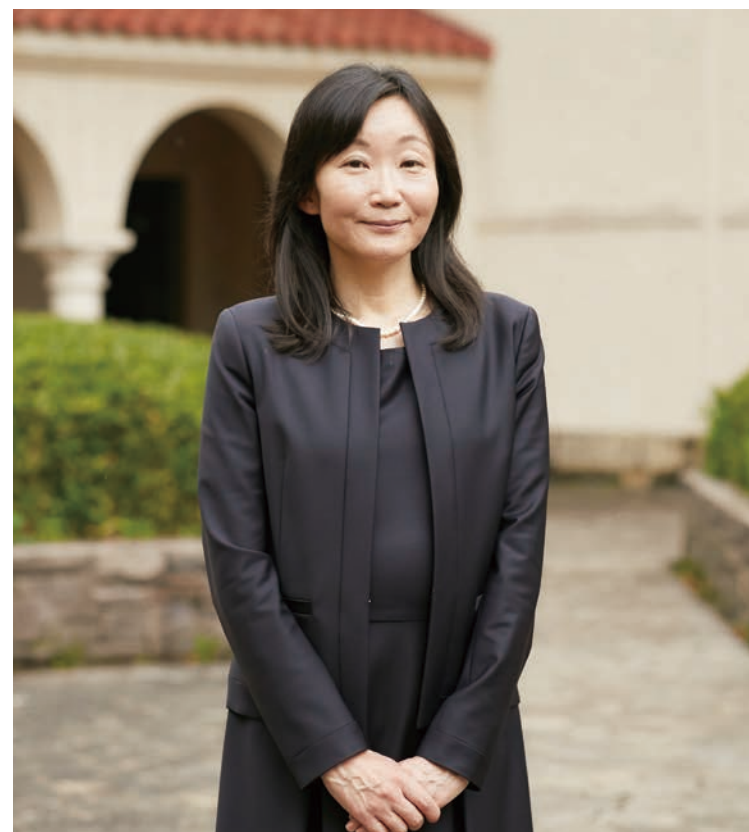


野原 万里

前期課程 修士論文コース 2021年3月修了

2冊の本との出会いをきっかけに、
私の研究は広がっていきました。

塾で英検対策の授業を担当しながら私自身も英検1級の勉強に取り組んでいた際に、偶然、書店で大学の門田先生の著書と出会いました。その本を通じて、第二言語習得という研究分野があることを知って興味を抱き、気付けば言語教育学プログラム専攻に入学していました。修士論文では、「第二言語習得」の講義の教科書で知ったスキーマ理論*を基に、日本語母語話者が英語の読解をする前にプレリーディング活動、例えば英文に登場するいくつかの英単語と日本語の意味をあらかじめ学んでおくなどのアクティビティをすることで、読解力が高まるか、その効果を調べました。卒業後も何らかのかたちで英語教育に携わりたいと考えており、研究の中で有効だったアクティビティも授業で取り入れていきたいと考えています。



橋本 洋子

前期課程 修士論文コース 2021年3月修了



*学習者があらかじめ持つ先行知識(スキーマ)を「理解」に役立てようとする理論

外国語・第二言語としての

日本語教育の 実践者

を育成

日本語教育学領域



多くの修了生が日本語教育の
専門知識を活かして国内・海外で活躍

日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材輩出を目指します。それに関わる言語・文化・教育学の内容であればいずれもここで研究することができます。たとえば、音声学や語彙・文法の研究、日本語と他言語の対照、言語習得論、教授法と教材開発、コミュニケーション論、談話分析、社会言語学、心理言語学、言語教育政策、日本文学・文化論、メディアとカルチャーなどが学

べられます。また、多様化する日本語教育のニーズに合わせた実践授業に加え、現職日本語教師のリカレント教育も行います。各分野の専門家である指導教員が温かく指導に当たっており、満足のいく研究ができます。修了生は、日本語学校や中高の教員、海外の大学教員、会社員などとして国内外で活躍しています。

クローズアップ講義

◆日本語教育研究(実践)

日本語学習者向け教材の分析、教案作成、模擬授業などを行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための科目です。授業活動を通じて、問題解決の方法や効果的な指導法などを各自の実践をもとに考えます。

◆日本語会話分析法

対人コミュニケーションのプロセスを分析するためのツールとして社会学の分野で確立された「会話分析」(Conversation Analysis)の方法論について学びます。会話分析の理論的背景や基本的な考え方を押さえたあと、日常会話の構造を分析するためのさまざまな切り口を紹介し、各自が収集した具体的な会話データを分析できる素地を養成します。

◆日本語語彙・文法教育

日本語非母語話者を対象とする日本語教育を円滑に行うためには、日本語の語彙や文法の知識が必要です。この授業は、日本語非母語話者への日本語教育に必要な語彙や文法の基礎知識を学ぶことを目的としています。

◆日本語フィールド調査法

この授業では、多文化間コミュニケーションにおける「共通語としての日本語」をテーマとしたフィールド・ワーク調査を実施します。調査の全ての段階(企画・実施・データ分析)を共同で行い、社会言語学的観点からの言語/コミュニケーション研究の様々な調査/分析方法を紹介、検討、そして応用することが主な目的です。

■ 修士論文テーマ(抜粋)

- 日本語教育における文学教材の可能性
- ひらがな・カタカナ練習用フォントの開発～日本語教師とゼロ初級学習者の文字学習支援のために～
- サ変動詞と共起する格助詞「に」「を」の交替に関する一考察—国会会議記録を手掛かりに—
- 相互文化理解を目指した授業づくりに関する一考察—自己表象のディスコースに注目して—
- 中国語母語話者日本語学習者の「は」の不使用と過剰使用に関する一考察—類型化を目指して—
- 初対面における日韓ほめについての対照研究—会話分析によるアプローチ—

Message from Students

日本語教育について、より深く、
より実践的に学ぶことができました。

大学とWスクールで専門学校を修了後、国内の日本語学校で2年間教師をしていましたが、自身の知識のなさを感じるようになり、もっと専門的に学び、スキルアップしたいと本研究科に入りました。授業では「日本語教育実践」が特に印象に残っています。既存の教科書を使わずに1から教案を作り上げ、留学生に授業を行いました。私自身初めての試みで、他の受講生たちと頭を悩ませながら授業を作り上げていく過程は、とても有意義で良い経験になりました。今後は博士後期課程に進学し、修士論文で取り組んだ「会話の内容から会話者の親しさを測る」研究テーマをさらに深めていきたいと考えています。将来は日本語教師としてもう一度教壇に立ち、留学生に日本語を話す楽しさ、面白さを伝えられる授業をしたいです。



西阪 亮

前期課程 修士論文コース 2021年3月修了
後期課程 2年

日本語学習者ならではの視点で、
日本語を勉強する人たちの役に立ちたい。

現在、会話分析の手法を用い、中国語を母語とする日本語学習者の会話中に見られるコードスイッチング*について研究を行っています。留学生の友人と中国語で会話している時に、たまに日本語の単語やフレーズが出てくることに興味を持ち、このテーマを選択しました。いつ、どのような形、どのような意図でコードスイッチングが行われるのか、その規則性を見出すことで日本語学習者の学習過程で直面しやすい問題を明らかにしたいと考えています。私が所属する森本先生のゼミでは、修士と博士の学生と一緒に授業が行われます。自身の発表に対して先輩方から様々な意見をもらえるので大変勉強になりますし、先輩方や先生の会話分析に対する熱意にふれ、私も頑張ろうと刺激を受けています。この恵まれた環境であと1年、後期課程も視野に入れながら研究を進めていきたいです。



戎 芸

前期課程 修士論文コース 2年



*会話や文章の中で2種類以上のコード(言語や方言など)をスイッチ(切り替え)すること

カリキュラムと修了要件（前期課程）

科目区分			言語コミュニケーション能力養成科目			領域研究科目				実習科目	演習科目			修了必要 単位数	
授業科目の名称(単位数)			<基礎科目> 言語コミュニケーション文化特論(2) 異文化コミュニケーション論(2) スピーチ・コミュニケーション論(2) ことばと文化(2) 英語と文化(2)	<運用能力養成科目> [英語科目] 英語インテンシブ・リスニング(2) 英語オーラル・プレゼンテーション(2) 英語ディベート(2) 英語エクスプレッシブ・ライティング(2) 英語アカデミック・ライティングA(2) 英語アカデミック・ライティングB(2) [フランス語科目] フランス語論文作成(2) フランス語読解(2) フランス語コミュニケーション(2) [ドイツ語科目] ドイツ語論文作成(2) ドイツ語読解(2) ドイツ語コミュニケーション(2) [中国語科目] 中国語論文作成(2) 中国語読解(2) 中国語コミュニケーション(2)	<言語科学領域> 言語科学(2) 言語意味論(2) 言語語用論(2) 社会言語学(2) バイリンガリズム(2) 音声科学(2) 言語表現論(2) 辞書学(2) 心理言語学(2) 言語習得論(2) 言語構造論(2) 対照言語学(2) コーパス言語学(2) 言語障害学(2)	<言語文化学領域> 言語文化学(2) 比較文化学(2) 異文化理解(2) 思想と文化(2) 批評と文化(2) 演劇学A(2)* 演劇学B(2)* 映画学A(2)* 映画学B(2)* 多言語主義・多文化共生(2) 日本文化A(2)* 日本文化B(2)* 英語圏文化(アメリカ)A(2)* 英語圏文化(アメリカ)B(2)* 英語圏文化(イギリス)A(2)* 英語圏文化(イギリス)B(2)* フランス語圏文化A(2)* フランス語圏文化B(2)* ドイツ語圏文化A(2)* ドイツ語圏文化B(2)* 中国語圏文化A(2)* 中国語圏文化B(2)*	<言語教育学領域> 言語教育学(2) カリキュラムデザイン(2) 教育評価(2) 英語教育教材研究(2) 英語教育実践(2) 言語教育政策(2) 第二言語習得(2) 授業分析(2) 小学校英語教育実践(2) 英語教授法実践(2)【注】 言語学習心理学(2) 英語教育法(2) 早期英語教育理論(2) 言語教育と社会(2) 言語教育研究法A(2) 言語教育研究法B(2)	日本語教育実践Ⅰ(3) 日本語教育実践Ⅱ(3)	研究演習Ⅰ(2)	研究演習Ⅱ(2)	課題研究(2)	30単位			
修士論文コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・フランス語科目	・ドイツ語科目 ・中国語科目	}の中から6単位	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位		
	言語教育学領域	言語教育学プログラム		・英語科目 ・フランス語科目	・ドイツ語科目 ・中国語科目			14単位	(各語圏文化の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)	—	4単位	4単位		—	
	言語文化学領域	地域文化研究プログラム						18単位	(多言語主義・多文化共生の2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)		4単位	4単位		—	
		映像演劇文化プログラム						18単位	(演劇学A・B、映画学A・Bの中からの2単位とそれ以外の言語文化学の領域研究科目2単位を含む)		4単位	4単位		—	
	日本語教育学領域	プロフェッショナルプログラム	— (履修は可)					16単位	(日本語教育学の領域研究科目10単位を含む)	6単位	4単位	4単位		—	
		アカデミックプログラム						22単位	(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—					
		日本学ダブルディグリープログラム						22単位	(日本語教育学の領域研究科目8単位を含む)	—					
	課題研究コース	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位	・英語科目 ・フランス語科目	・ドイツ語科目 ・中国語科目	}の中から8単位	16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	—	—		4単位	30単位
言語教育学領域		言語教育学プログラム													
ダブルディグリーコース スターリング大学	言語科学領域	言語科学プログラム	2単位					16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位	—	30単位	
								英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング	6単位必修 (1年春学期に履修)	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位		4単位
	言語教育学領域	言語教育学プログラム	2単位						16単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—	4単位	4単位		—
									英語インテンシブ・リスニング 英語オーラル・プレゼンテーション 英語アカデミック・ライティング	6単位必修 (1年春学期に履修)	14単位	(選択したプログラムの領域研究科目4単位を含む)	—		4単位
学位コース 英語教員対象 二年制修士	言語教育学領域	言語教育学プログラム	2単位	—			24単位	(英語教授法実践2単位とそれ以外の言語教育学プログラムの領域研究科目18単位を含む)	—	4単位	—	—	30単位		

【注】英語教授法実践は、英語教員対象1年制修士学位コース学生以外は履修不可。
☆領域研究科目の開講原則：4学期間に昼2回（言語科学と言語教育学は昼と夜を各1回）開講する。
☆「演劇学」、「映画学」、「日本文化」、「英語圏文化（アメリカ）」、「英語圏文化（イギリス）」、「フランス語圏文化」、「ドイツ語圏文化」、「中国語圏文化」、それぞれA・Bともに隔年開講する。（A・Bあわせて、4学期間に2回開講する。）
※修了要件の一つ（専門外国語学力の認定）として「運用能力養成科目」2科目の修得あるいは、研究科が定める外部試験において、一定以上のスコアが必要である
（外国人留学生の専門外国語学力認定については別途定める。）

修了生からのメッセージ

It Always Seems Impossible Until It's Done

このタイトルは、Nelson Mandelaの名言ですが、まさに私の言コミの経験を表していると言えます。主宰する英語教室での指導を通し第二言語習得への疑問が生まれ、大学院進学を決意しました。大学とは縁遠い日々を送っていた私には、大学院入学自体、不可能に思いましたが、言コミがその願いを叶えてくれました。入学後は、不可能と思われた前期課程の学びと平行して、中高教職（一種）免許未取得からの専修免許取得も、先生方の深いご理解と手厚いご指導のおかげで実現し、更に、後期課程、博士学位取得と入学前は想像していなかったことが現実となりました。今後は、Mastery for Serviceを胸に、不可能かもしれませんが、言コミへの恩返しとして、研究で社会に貢献したいと思っています。



西村 浩子

2017年3月 前期課程修了
修士論文コース（言語教育学）
2022年3月 後期課程修了
周南公立大学 講師

社会人で言語学、日本語を学ぶ第一歩として

私が言コミに興味を持ったのは、仕事で音声認識のAIに関わるようになった2年前です。大学では、数学を専攻しており、言語に興味を持つことはありませんでした。しかし大学院に入って言語科学の基礎科目を学ぶにつれ、どんどん引き込まれていきました。中でもスピーチアナライザを使用した音声分析には、特に興味を持ち、課題研究も役割語（キャラ語）の音声的考察を行いました。仕事をしながら、梅田キャンパスで授業、ゼミを受講でき本当に充実した2年間の学生生活を送れました。それから半年に一度行われる言コミフォーラムは、学外の専門家の講演を聞けるだけでなく、先輩または同期の研究発表の場となり、大変有意義な情報収集の場です。



小林 明尚

2019年3月 前期課程修了
課題研究コース（言語科学）
アマゾンジャパン合同会社
Shipping & Delivery サポート部
シニアマネージャー

Bonjour. C'est ma vie!

私は学生時代から興味のあった言語や文化について学びたいと思い定年退職を機に言コミへ入学しました。修士論文ではグローバル人材の生き方を多様な言語や文化的背景からなる組織経営を海外で経験された方へのインタビューを通して研究することができ、修了後はフランスのブルゴーニュ大学に留学し欧州における多言語多文化組織経営を学ぶ機会を得ることができました。留学の準備を進めながらフランス語を履修する機会を与えていただけたことも幸運でした。現在は、これまでに学んだことを整理して多言語多文化共生について理解を深めるための入門的な手引書の編成に取り組んでいます。今日、企業経営に於けるダイバーシティの必要性が問われていますが、将来少しでも理解の一助になればと思っています。



鈴木 恵三

2017年3月 前期課程修了
修士論文コース（言語文化学）

言コミで学んだ研究との関わり方

言コミで学んだことは「自分の研究との関わり方」です。言語教育学プログラムでは英語をテーマとした研究が多いですが、英語以外の言語でも、ベースとなる研究デザインや研究倫理、データの扱い方をしっかり身に着けることができます。言語面は関連学会で補う決心をしたら、自然と学会活動もできました。指導教員の先生はどんな研究テーマでも、親身に話を聞いてくださりました。個別研究指導では研究の進捗、先行研究、研究デザインなど、詳細について先生と検討し、リサーチセミナーでは先輩や同期の研究内容を聞くことで、他の分野についても学びつつ、自分の好きなテーマで研究することができました。言コミで教わった研究手法を土台として、これからも続けたいと思います。



崔 銀景

2014年3月 前期課程修了
修士論文コース（言語科学）
2020年9月 後期課程修了
長崎外国語大学
国際コミュニケーション学科
特別任用講師

■ 本研究科修了生の進路状況

本研究科入学者には、大学学部を卒業してすぐに入学する人、仕事を続けながら入学する人、仕事をやめて入学する人、休職して入学する人などがあります。結果として、入学者の職種や年齢構成も幅広く多岐にわたるため、多様なバックグラウンドをもった学生の集まりとなっています。また、関西学院大学以外の大学卒業者が多いのも大きな特徴です。本研究科前期課程修了生の進路は、就職が一番多く、その他本研究科後期課程や他の大学院に進学する人もいます。修了生のうち、就職者（前職への復職・現職の継続を含む）は51.4%、そのうち学校関係（中学、高校、短期大学、大学、専門学校などの言語教育担当教員）への就職が60.0%となっています。学校関係（教員）への就職者が多いことが特徴です。

修了生の進路状況

（2003年3月～2022年3月修了）

修了生	就職者	（内訳）		進学者	その他
		教員	教員以外		
461名	237名 (51.4%)	141名	96名	72名 (15.6%)	152名 (32.9%)

就職者のうち60.0%が教員として就職（前職への復職・現職の継続を含む）

■ 主な就職先一覧

日本電気、京セラ、伊藤忠商事、イーオン、デンソー、読売旅行、エイチ・アイ・エス、ベネッセコーポレーション、ECC外語学院、ヤマハ英語教室、日本電子、大広、プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン、メルリックス、楽天、アンスティチュ、フランセ日本、河合塾、エスシー、日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ、ニトリ、Asian Bridge、エクセディ、小松製作所、フルタ二産業、マルアイ、暁学園、梅村学園、開智中学校・高校、大阪芸芸、大阪信愛女学院、大原学園、関西学院、啓明学院、甲南学園、神戸山手学園、此花学院、須磨学園、瀧川学園、仁川学院、睦学園、カナディアン・アカデミー、東北学院大学、近畿大学、サイアム大学、大阪府立大学、大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学附属天王寺中学校、中国・大連交通大学、兵庫県高校教員（英語）、西宮市中学校教員（英語）、神戸市中学校教員（英語）、大阪府高校教員（英語）、広島県高校教員（英語）、石川県高校教員（英語）、奈良県高校教員（英語）、その他

大学院担当教員（2022年4月現在）

教員の研究内容の詳細については、研究科Web http://www.kwansei.ac.jp/g_language/ の「教員一覧」および研究業績データベース <http://www.kwansei.info/src/> を参照

言語文化学

アベ タカヤ 教授

ドイツ語現代文学、メディアオロジー、西洋古典音楽の拍節論

現在の中心課題は1750～1900年頃のクラシックの拍節論。いわゆる古楽や現代音楽に関する言説は喧しいが、クラシックのスタンダードとされてきたこの時代こそ、理論上の重大な欠落があると考えている。

言語文化学

ウエダ カズヒコ 教授

フランス思想、フランス革命、プランショ、ラクー＝ラバルト

現代思想で問題となる「文学」、「倫理」、「政治」、「宗教」をフランス革命まで遡って考察しています。目下、フランス革命で民主主義が創設される際、なぜ恐怖政治が起こったか考えています。

言語科学

言語教育学

イシカワ ケイイチ 教授

応用言語学、心理言語学、第二言語獲得

ことばの仕組みとその認知メカニズムに関心があります。第二言語の獲得・学習の研究を行っており、特に、新しい文法や語彙を学ぶ際、潜在的な学習と明示的な学習ではどのように異なるのか、得られた知識はどのような性質を持つのか、等について調べています。

言語科学

ウチダ ミツミ 教授

英語コーパス言語学、英語の歴史における言語接触

（現代）英語を対象として、人が言語をどのように用いているのかを研究しています。実際に用いられた言語資料を観察する方法で、科学的に適切な記述をすることを目指します。

言語文化学

イトウ マサノリ 教授

イギリス文学、モダニズム小説、ジャーナリズム、労働運動、群衆

19世紀末～20世紀初頭のイギリス小説を主な題材に、テキストと当時のイギリス社会・文化との関わりについて研究しています。特にジャーナリズムや労働運動の発展、そして群衆の様態の変遷が、小説というジャンルの成長にどのように関わっていたかという点に注目しています。

言語科学

言語教育学

ウメサキ アツコ 教授

英語コーパス言語学、ESP教育、レジスター・ジャンル分析、語彙文法研究

コーパスを利用した実証的研究とその成果を英語教育に活かすことを目指し、英語の類義語・コロケーション・定型表現研究を文脈や言語使用状況（レジスター・ジャンル）と関連づけて行っています。

言語科学

イバラキ セイシロウ 准教授

理論言語学、史的統語論、文法化

言語は時代とともに変化しますが、特に英語はその歴史の中で相当な変化を受けてきた言語で、様々な興味深い現象が観察されます。このような現象に対して、私は生成文法という言語理論を用いて、英語の歴史的変化の要因とメカニズムの解明を試みています。

言語文化学

イワマツ マサヒロ 教授

物語理論、小説史、思想史、サブカルチャー研究

小説（とくに非リアルizm小説）を物語論やコミュニケーション論の観点から理論的に研究しています。また哲学や心理学、認知科学の知見に頼りつつ、文学作品の構成・受容を日常の発話行為や聞く行為の延長に置いて分析しています。

日本語教育学

言語科学

ウ コウ 教授

日本語学、日本語と中国語の対照研究、日本語の誤用と日本語習得の研究

主に取り組んでいる研究内容：日本語の語彙研究と文法研究、語彙や文法を中心とする日本語と中国語の対照研究、中国語母語話者日本語学習者の誤用研究及び習得難易度やバックスライティングに関わる日本語の習得研究。

言語文化学

オオヒガシ カズシゲ 教授

日中比較文学、日本近現代文学、中国近現代文学、台湾文学、比較文化論

日本・中国・台湾の文学を、比較文学・文学史研究の手法で研究しています。日露戦後の文学や、郁達夫と大正文学、台南の文学について本をまとめました。外国人の見た日本・中国・台湾についても関心があります。

言語文化学

オガサワラ アイ 教授

モダニズム文学・芸術

1920年代パリ・モダニズムにおける視覚芸術と散文の交感（スタイン、ヘミングウェイ、ダダ等）、移民の米芸術論とアイデンティティ（サダキチ・ハートマン）、米女性芸術家の身体性（ジョージア・オキーフ）、日本近代彫刻論（萩原碌山）など。

日本語教育学言語科学

Teja Ostheider 教授

前 後

コミュニケーションの社会心理学、言語教育政策、共通語としての日本語

Comment

言語政策、言語教育、言語権、言語行動、言語意識、アイデンティティ、バリアフリーなど、様々な観点から「マイノリティ」に対するコミュニケーションを研究しています。例えば、「外国人」や「障害者」と呼ばれる人々について調査しています。

言語文化学言語教育学

柿原 武史 教授

言語政策、言語教育、スペイン語学、少数言語、移民問題

Comment

スペイン・ガリシア語をめぐる言語政策、特に教育に関する政策を研究している。政治的論争が子どもの言語教育に与える影響について関心がある。その他のスペイン語圏における言語教育政策、日本における外国語教育政策、外国人の子どもの教育にも興味がある。

言語教育学言語科学

門田 修平 教授

シャドーイング・音読、メンタルレキシコン、語彙学習、L2リーディング、L2リスニング

Comment

専門は心理言語学、応用言語学。第二言語としての英語が、いかにして知覚・処理され記憶・学習されるかその認知的な仕組みについて研究しています。同時に、このような仕組みが、どのように相互交流し合うのか、その社会認知的な仕組みについても研究しています。

言語教育学

Vivian Bussinguer-Khavari 准教授

second language acquisition, heritage language education,

Comment

My research is mainly divided into two areas: Second Language Acquisition (SLA) and Heritage Language Education (HLE). Within SLA, I focus on the teaching of English as a second or foreign language (ESL/EFL) and within the field of HLE, I study the first language maintenance and second language acquisition of immigrants children.

言語文化学

河村 克俊 教授

西洋近代哲学、ドイツ啓蒙、自由論、概念史的方法、カント

Comment

これまで主に、西洋近代思想史にみられる「自由」について考えてきました。自由は、自律や自覚性と同義語とされることがあり、また善悪の問題に関わります。そして自然科学的決定論、運命論、充足根拠律等と矛盾する関係にあります。

言語教育学

工藤 多恵 教授

英語教育、協同学習、教材開発

Comment

学習者の自律性を高める教授法やアプローチに関心を持っています。特に習熟度が低く、英語に苦手意識を持つ学習者を対象とした教材開発、アセスメント方法や教授法の考案に取り組んでいます。

言語教育学言語科学

氏木 道人 教授

英語教育、英語習得理論、指導法の検証、リーディング・語彙の指導・習得、音読とシャドーイングの指導と効果検証

Comment

英語指導法の検証、英語習得理論に関心があり、中でも語彙・リーディングの習得プロセスと指導法を主な研究対象としています。英語4技能の指導いづれにおいても効果的な授業には、理論とデータ検証に基づいたアプローチが必要です。理論から実践への橋渡しとなる英語教育研究を目指します。

言語文化学

島貫 香代子 准教授

アメリカ文学・文化、リージョナリズム、人種・民族問題

Comment

フォークナーが描いた20世紀南部を研究していますが、最近ではホーソンが描いた19世紀ニューイングランド地方にも関心を寄せています。これらの地域を主に人種・民族の観点から考察しています。

言語教育学

住 政二郎 教授

CALL、項目応答理論、ダイナミック・アセスメント

Comment

外国語教育におけるテクノロジー利用をテーマに、現在は、項目反応理論を応用したダイナミック・アセスメントの手法の開発と実践への応用に取り組んでいる。

言語科学

住吉 誠 教授

現代英語の語法文法、フレイジオロジー、辞書学

Comment

現代英語の言語資料にもとづいて、これまで気づかれていなかった新しい語法、語法の変化、表現の変異などを明らかにし、統語的・意味的観点から英語にひそむ規則性の実証的解明に取り組んでいます。

言語文化学日本語教育学

関谷 一彦 教授

フランス文化、マルキ・ド・サド、リベルタン文学、リベルタン版画、春画

Comment

これまでフランス18世紀文学や文化を研究してきましたが、その中でも今はリベルタン文学を翻訳・紹介することに力を注いでいます。また、フランス文化を研究対象とする院生も受け入れたいと思います。

言語文化学

禪野 美帆 教授

文化人類学、ラテンアメリカ地域研究、現代の先住民

Comment

先住民と呼ばれる人々が、グローバル化した社会環境を利用しながら、自分たちの文化やアイデンティティの独自性を主張あるいは生成するプロセスについて、特にメキシコを中心に、フィールドワークに基づく研究をしています。

言語科学

田中 裕幸 教授

理論言語学、生成文法、原理・パラメータ理論、統語論

Comment

人間の認知能力を取り扱う科学の一分野としての言語学、特に統語論(文の構成法)を中心に研究を行っています。自然科学の方法で、複雑に見える言語に潜む規則性や普遍性に迫ることができるのがこの分野の醍醐味です。

言語科学

谷 明信 教授

英語史、語彙論、文体、phraseology、辞書史

Comment

中英語(1100-1500)から初期近代英語(1500-1700)における語彙と文体を研究しています。文体、ジャンルによる、phraseologyを含めた語彙の変化・変異に注目して、調査を行っています。

言語教育学言語文化学

趙 怡 教授

比較文学・比較文化、翻訳文学、中国近現代文学、日本近代文学、上海租界の歴史と文化

Comment

主に20世紀前半のパリ・上海・東京(京都)を舞台に展開された東西文化の交流と衝突について研究しています。とりわけ文化人の異文化体験や、文学作品に描かれた異国風景と異国人形象に注目します。また上海租界の歴史と文化について多言語の史料調査を通して研究を進めています。

言語文化学

塚田 幸光 教授

映画学、表象文化論、クロスメディア、アメリカ文学(ヘミングウェイ、フォークナー、モダニズム/ファシズム)

Comment

アメリカを軸とした映像文化の研究をしています。映画、写真、ジャーナル、文学など、網状のテキスト/コンテキストの中で変化する複数の「文化」に対し、クロスメディアの視座からその欲望の性/政治学を考察しています。

言語科学言語教育学言語文化学

寺沢 拓敬 准教授

言語社会学、言語政策、英語教育史、言語使用・言語イデオロギーの政治経済的分析、批判的応用言語学

Comment

言語現象(言語使用、言語に対する態度、言語教育)について社会科学的な理論・手法を用いて検討している。主たるフィールドは日本、得意な分析手法は史資料の内容分析および社会統計である。「日本社会と英語」に関する研究が多いが、それ以外の言語現象にも関心がある。

言語科学日本語教育学

田 禾 教授

対外漢語、現代中国語文法、特定文型の使用条件、日本人学習者の誤用分析

Comment

日本人の中国語学習者を対象とする「対外漢語」の分野で、誤用例を分析しながら、現代中国語の文型及び言葉の使用条件について研究を進めております。中には中国語における類義語と類義表現の分析にも興味を持っております。

言語教育学言語文化学

中川 慎二 教授

異文化間教育、授業分析、談話分析、海外日本人コミュニティ、ドイツ語言語教育政策、CEFR、シティズンシップ教育、識字教育

Comment

シティズンシップ教育(ドイツでは政治教育)の文脈で、言語学習と市民権について研究しています。人の移動が増えていく中で、共生のための知識とその教育実践が重要です。ドイツ語圏と日本における統合政策と言語教育政策に関して研究しています。

言語科学言語教育学日本語教育学

中野 陽子 教授

心理言語学、第一言語または第二言語としての日本語と英語の形態素処理と文処理

Comment

母語または第二言語としての英語や日本語の語や文が、どのように理解されるのか、あるいは産出されるのか、その仕組みについて、さまざまな実験(行動実験、視線操作法や事象関連電位測定を用いた実験)を行いながら研究しています。

言語文化学日本語教育学

西村 正男 教授

中国近現代文学、中国メディア文化史、中国語圏の映画、日中文化交流、ポピュラー音楽、東アジアレコード文化史

Comment

本来の専門は中国文学ですが、ポピュラー音楽研究や映画研究にも関心を持ち、中国や香港・台湾などの音楽や映画の歴史を調べています。日本との関わりについても関心を持っています。

言語科学言語文化学

野上 陽子 准教授

English as a lingua franca (ELF)、第二言語話者のアイデンティティ、intercultural pragmatics、質的研究

Comment

第2言語として英語を使用する人のアイデンティティの構築や、話者の語用論的言語使用とアイデンティティの関連性について、共通語としての英語(ELF)を通じた異文化コミュニケーション場面に焦点を当てて研究しています。

言語教育学

長谷 尚弥 教授

リーディング指導、アメリカバイリンガル教育、批判的応用言語学

Comment

英語教育、特にリーディング指導に興味を持っている。また、アメリカバイリンガル教育を参考に、言語や言語教育の持つ社会的な意味合い(批判的応用言語学)にも関心を持っている。

日本語教育学

長谷川 哲子 准教授

アカデミック・ライティング教育、留学生の作文に関するピリーフ、日本語ライティング教材の開発

Comment

日本語教育が扱う分野の中で、特にライティングの分野に関心を持っています。文章の分かりやすさや書くことに対するピリーフなどが最近関心を持っているテーマです。

言語教育学言語文化学

福地 直子 准教授

カウンセリング心理学・英語教育方法論・異文化間教育

Comment

異文化適応、異文化間能力、多文化共生におけるカウンセリングマインド養成教育に関心を持っています。多文化共生社会に向け、新しい社会教育実践モデルの検討、異文化理解教育の発展などに取り組んでいます。

言語文化学

藤田 友尚 教授

シャルル・ノディエ、フランス革命からロマン主義時代に至る政治文化とジャーナリズム、「間テクスト性」、政治的装置としてのオペラ

Comment

研究の主眼は、革命とそれに続く動乱期の政治文化の変容をノディエがいかに創作技法に反映させながら作品を構築しているかという点にある。同時に、19世紀フランスにおける権力装置としてのオペラの表現にも注目している。

言語文化学

藤野 真子 教授

中国演劇、劇評論、中国民間芸能、中国近現代文学、上海文化、中国メディア・出版史、呉方言文芸

Comment

20世紀上海における、京劇を中心とした伝統演劇の動向分析をテーマとしている。特に、観客のニーズを踏まえた演技・演目・演出の改革、メディアの発達と劇評との関係を中心に研究を行っている。また関連ジャンルとして、同時期の文学、言語等にも目配りをしている。

言語文化学

増永 俊一 教授

19世紀アメリカ文学(Antebellum)、アメリカ文化史、ツーリズム、ピューリタニズム、N. ホーソー

Comment

主として19世紀前半のアメリカ文学・文化が考察対象である。社会的、経済的、政治的コンテキストと、作家固有の言語表現や文学技法といった美学との交差に関心があり、現在は特に19世紀ツーリズムの発展と芸術表現との関連について考察を進めている。

言語文化学

マツミヤ ソコ

松宮 園子 教授

イギリス小説、モダニズム、アダプテーション、表象文化

前
 後

英語小説を研究の中心とし、ウルフやフォースター等のモダニズムの作家から、イシグロ、マキューアン等の現代作家を扱いながら、最近では文学テクスト及びアダプテーション中の芸術表象について考察しています。

言語教育学

ミカミ アキヒロ

三上 明洋 教授

英語教授法、授業研究、アクション・リサーチ、教師教育、教育方法と評価

効果的に英語を教育・学習する方法を探っています。授業を中心に理論と実践をつなぐ研究を目指しています。生涯にわたって学び続ける教師の養成・研修の在り方や評価法（妥当性検証など）についても興味があります。

言語文化学

ミヤハラ カズナリ

宮原 一成 教授

英文学、英連邦現代小説研究、物語時制論

20世紀後半から21世紀の英国・英連邦小説が主な研究対象です。最近では、物語を読むという行為を「贈与」として捉える可能性や、物語を現在時制で書くことの意味について考察しています。

言語科学 言語教育学

ムラカミ ヨウコ

村上 陽子 教授

社会言語学、言語教育、スペイン語学、スペイン語教授法

スペイン話話者の言語行動に興味があり、フィールド調査やアンケート調査を通じて、依頼、指示などの言語行動について研究しています。スペイン語をはじめとする言語教育において、学習方法による学びの変化を文法教育の視点から考察しています。

言語文化学

モリタ ユリコ

森田 由利子 教授

イギリス小説／文化、ライフ・ライティング、ヴァージニア・ウルフ

前

イギリス小説／文化研究が専門領域ですが、特に、「ライフ・ライティング(Life-writing)」というジャンルに着目して研究を進めてきました。伝記や自伝、さらには、肖像画や写真、家なども「ライフ・ライティング」であると捉え、考察しています。

日本語教育学

モリモト イクヨ

森本 郁代 教授

会話分析、相互行為分析、コミュニケーション・デザイン

前
 後

人々が会話をしたり一緒に共同作業をしたりといった、社会生活のさまざまな場面における日常的な活動をどうやって行っているのかを、録音や録画データを基に言語と非言語(体の動きや視線など)の両面から研究しています。

言語科学 言語教育学

ヤマダ カズミ

山田 一美 教授

応用言語学、第二言語習得、普遍文法、L2としての英語・日本語習得、空代名詞、冠詞

第二言語習得(SLA)では、母語の影響、段階的な発達、体系的、多様性、不完全性が観察されています。これらの現象にはどのような説明が可能なのでしょうか？SLAのメカニズムや習得モデル、また、言語教育への示唆について考察を進めています。

言語文化学

リ ケンジ

李 建志 教授

韓国朝鮮研究、ナショナリズム、在日朝鮮人問題、比較文学、マイノリティ問題、朝鮮王族の研究

朝鮮文学・文化を研究が研究の出発点です。現在は韓国華僑の問題、アイヌ問題、小笠原西洋系島民、石垣島台湾系島民、パラオの日本語世代、旧外地からの引揚者などを、日本社会と離れたエスニックグループと捉えて研究しています。

言語文化学

ハンス ベーター リーダーバッハ

Hans Peter Liederbach 教授

日本哲学(京都学派)、西洋哲学(近現代)、比較思想(西洋／日本)

和辻哲郎のハイデガー受容が私の研究の発端であった。現在の私の主な関心は、日本哲学、とりわけ京都学派の現代的意義を検討することにある。この際、西田幾多郎と新実在論(new realism)、和辻哲郎とケア倫理、九鬼周造と他者論などのテーマを研究し、京都学派が現代哲学に貢献できることを掘り出している。

言語科学

ワタナベ タクト

渡辺 拓人 助教

英語史、英語学、コーパス

近代英語を中心に、実証的な立場から英語の史的变化を研究しています。特に、近接未来を指す表現の発達や類似した意味や機能をもつ表現間の競合について関心を持って取り組んでいます。

言語コミュニケーション能力養成科目担当

アンドリュー ナウラン

Andrew Nowlan 言語特別准教授

internationalization, intercultural competence, student mobility, second language acquisition

Greetings! In the current knowledge economy, global interconnectedness provides many exciting opportunities to build cross-cultural competences, even in an ethnically homogenous country, like Japan. I try to apply an international dimension to all aspects of the learning process by drawing not only on my personal, professional, and academic experiences, but also those of the students. I look forward to our discussions and collaborations.

01 セメスター制と授業開講時間帯

原則として半年開講のセメスター制を採用し、昼夜開講のカリキュラムを編成しています。また一般学生、社会人学生の区別なく授業を開講し、言語科学プログラムと言語教育プログラムでは夜間授業のみの履修でも修了に必要な単位を修得することができます。

02 教職課程(専修免許)の設置

前期課程では、専修免許(中学英語、高校英語)を取得することができる教職課程を設置しています。言語科学・言語教育学プログラムでは、一種免許(中学英語、高校英語)をすでに取得している場合、本研究科の修了必要単位を修得することで、免許申請に必要な単位をほぼ修得することが可能です。

03 単位数による学費納入制度

社会人入試で入学した者で、修了まで2年を越える履修計画の場合、履修単位数を基礎とした学費納入方法を選択することが可能です。入学時において決定した学費納入方法については、修了まで変更することはできません。

05 大学図書館

＜西宮上ヶ原キャンパス＞

蔵書数約150万冊で、西日本有数の規模を誇り、国内外のあらゆるデータベースが活用できます。また、申込制による研究個室も利用できます。

授業・研究に対する充実したサポート体制

データベース・コーパス

以下の4種類のデータベースが利用可能です。
 ・Linguistics and Language Behavior Abstracts (LLBA)
 ・MLA International Bibliography
 ・British National Corpus (BNC)
 ・WordbanksOnline
 他にも本大学図書館が契約する各種データベースが利用できます。

06 言語コミュニケーション・フォーラム

各学生が研究成果を発表し、各方面の研究者(学会構成員である教員や院生)からコメントや助言を受けることができる場として、毎学期(年2回)開催されます。フォーラムでの発表は、論文や研究成果の方向性を段階的に確認し、他者の視点を加えて論文の質を高めることを目的としています。また、各分野の著名人、専門家の講演等も随時開催され、最新の研究についての情報を吸収することもできます。

言語コミュニケーション文化学会

「言語コミュニケーション文化学会」は、本研究科の教員と現役学生および修了者からなる学会組織として、2001年4月1日付にて関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科開設と同時に設置された学会です。この学会の主な活動には、毎年9月と2月に開催される「言語コミュニケーション・フォーラム」と研究雑誌『言語コミュニケーション文化』の発行があり、その他にも言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学に関わる著名な研究者を招いて講演会を実施し、最新の研究についての情報を学会員に提供しています。また、研究雑誌『言語コミュニケーション文化』は、前期課程・後期課程修了者、後期課程満期退学者および在学中の学会員等の研究成果発表の場であり、原則として年1回発行します。

08 交換留学

交換留学は、本学に在籍しながら、協定大学へ1学期間または2学期間(1年)留学できる制度です。本研究科協定先のサンフランシスコ州立大学をはじめ、関西学院大学の協定校への留学が可能です。

学生共同研究室

＜西宮上ヶ原キャンパス＞

大学院棟(1号館)内に、院生専用スペース(延べ86席、パソコン45台設置)があり、夏季および冬季休暇期間以外は23:00まで利用可能です。また、G号館1階に、本研究科院生専用の共同研究室があり、自習や院生の情報交換の場として活用されています。